

チベットの歌劇と昔話

—「文成公主」をめぐって—

はじめに

この小論は、エペレスト山麓におけるチベット歌劇との出逢いと
いうわたしの体験から出発し、「昔話」と「歌謡」の中間項に「歌
劇」を介在させて、チベットにおける三者の一体ともいべき伝承
過程の一側面を考えてみようとするものである。
歌劇といつてもチベットのいわゆる八大歌劇（伝統歌劇）は内容
的には昔話の歌劇化と呼ぶにふさわしい。そこでまず從来日本で余
り知られることのなかった八種の歌劇を昔話との関連で略述紹介
し、歌劇と昔話の表現形式における自在な交流について言及した
い。次に、八大歌劇の中で最も土着的な「ギャサ・ペーサ（中国の
王女とネパールの王女）」、即ち中國でいう「文成公主」をとりあげ
る。これは日本でいう蟻通し明神の難題モチーフが求婚と結合し
たものである。これには昔話資料も数多くあるので歌劇資料と比較
して伝承過程の背景をさぐる。結論としてチベット人の婚礼習俗、
とくに婚礼歌謡が「ギャサ・ペーサ」の歌劇と昔話の伝承に対する
同時進行的なエネルギー源であることを述べる。さらに婚礼歌謡の
中の謎歌のかけあいが難問・難題モチーフの生成発展に関与するの
ではないかという予測をわたしの今後の課題として提示したい。

一 歌劇との出会い

加藤千代

わたしは中国の口承文芸を専攻する者であるから、フィールドに
はいる以前は、チベットの説話に対しても中国語訳資料によつて接
していた。それら翻訳資料の日本で入手できるものは、わたしの集
計ではざつと百九十話余にのぼる。——チベットは言うまでもなく
日本と同じように古く七世紀から文字を持つ。記述された説話集も
おのずと多く、それら文献資料の訳もこの中に含まれる。わたしは
主に採集資料をカードにとつていて、それらを読んでまず驚
かされるのは、歌われる歌としての詩が頻繁に現われること。まさ
に資料集の説明にあるとおり「多くの昔話が語りの中に民謡や謡い
物をおりませ、また会話の部分に諺や格言を引いていて、散文と韻
文が并存する、つまり語りと歌をあわせもつ」のである。その中で
わたしがとくに奇異な印象を抱いたのは、散文の部分にだしぬけに
比喩を使した韻文調の語りが入つて心理描写などを展開すること
である。わたしはこうした語り口をなにかギクシャクとしたものと
受けとり、不自然さを整理や翻訳の過程における記述文学化に起因
するものと推測していた。

ところが、機会あつてネパールはエペレスト山麓に住むシェルバ

族のクンブー地方の村々で約三ヶ月にわたり（一九七〇年一月、一九七一年六月、一九七七年四月）、彼らの口承文芸のあり方、その一端にみれることができた。すると以前字面でギクシャクとしていたものが次第に立体的な構造をもつたたらわされたのである。そこには、昔話と歌謡、語り物そして歌劇とが混然となつた口承文芸の世界がひらくれていた。

シェルペ (Car-pa 「東方の人」中国語名は夏爾巴)。なお、チベット語のローマ字転写法は注⁽²⁾に記す) は十六世紀にチベットからヒマラヤ南麓に移ってきたといわれ、チベット語の一方言であるシェルバ語を話す集団である。人口はネパール王国の六一年統計によればネパール東部山地に住むチベット人と合わせて約六万とある。⁽³⁾彼らは昔話にあたるものをペ (ape たとえ話、直喩、本など多義にわたる) と呼び、語り口はちょうど日本の「むかし、むかし、あるところに」にある「タンボー、タンボー、ペ」からはじまり、「めでたし」にあたる「キシンギヤワラシヨッ」で終る。⁽⁴⁾このまま文句をひと言いえば、日本では考えられないほど容易に話をひきだすことができた。ちなみに三ヶ月間に採録できた話の数は百二十一話に達する。

シェルペの語り手は話をきりだすとき、わたしには驚きであったが、題名らしいものをならべあげて何を話してあげようかと尋ねることが度々であった。日本でも頗智話には吉四六さんとか物ぐさ太郎とか題目らしいものがつく。シェルペの知恵者もたいへん多くて、ニヨジュン・トウンドウ、アオアンイクバなどが活躍する。しかし、彼らの場合、本格昔話にも呼び名があり、そのほとんどが主人公の名前である。じつは後にわかつたことだが、それらの名はチベット歌劇の題名であった。

歌劇見物の願いがかなつたのはわたしの二度目のクンブー訪問の折、ターメ村の寺院（標高四千四百）での開催であった——一九七一年六月四日。そこでの模様を述べれば長くなるので、輪郭の紹介にとどめる。舞台は寺院の中庭。中央に設けられた祭壇には歌劇の祖タンントンゲルポ（後述）の二十センチほどの像（遠眼には金箔の仮像にみえる）と供物と聖樹（ビヤクシンン？）の枝。上演は祭壇を中心点として進行。中庭の正面（本堂側）に活仏（僧院長）をまんなかにして僧侶の席、他の三方が一般席。他の例では村の土地神の祠や聖泉のある広場が使われ、大テントが中央と四方にはられる。上演の時期は一般的には新年のダライラマに捧げられるものと藏暦第六月の土地神に捧げられる収穫祭のものと年二回である。なお、クンブー地方では、マニ・リムドと呼ばれる仮面舞踊 (cham) がやはり年二回五月と十一月に行われる、すでに研究報告もでている。⁽⁵⁾歌劇と仮面舞踊の歴史的関係は審らかではないが、今日様々な相違をもつて平行して上演されている。なお、古代を今に伝えるチベット芸能については、日本에서도すでに昔から河口慧海『西藏文化と我国との関係』や竹内勝太郎『伎楽面源流考』など日本芸能の源流との関連で興味をもたれてきた。

歌劇は脚本の内容からはナムタル（「伝記」—後述）と呼ばれ、演劇総体としては俗にラモ (Lha-mo 「女神」)、アチヨラモ (姉女神) という。その起源伝説によれば、聖者タンントンゲルポ（十四C の僧）が人々を難儀から救うため河に橋をかけようとし、資金集めに舞踊劇を考案して村々をまわった。その演技者にラモという三姉妹がいたので人々がその歌舞劇をラモというようになった。また一説には寄進をあつめて橋をかけはじめたが、夜になると山の神 (gzhi-bdag 土地神) がおりてきてこわす。そこでインドの聖者タ

ントンゲルボに使者を送つて方法を尋ね、聖者の教え通り舞踊をして山の神の注意をそらして橋をかけおえたという。⁽⁸⁾ 歌劇の本来の目的は土地神、守護神をなごめる要素が強いが、今日の歌劇は後述するよう⁽⁹⁾ にラマ仏教が目的である。

大規模な歌劇は祭として一週間前後を要し、一つの歌劇で一・二・三日かかるという。ところがターム村ではただの一日で終つた。もと三種（「アチヨナンクサ」「トワサンモ」「ティミカンデン」）の上演予定が、セミプロの旅芸人の一座にわたした布施が少なかつたため一日できりあげられてしまつたとのことである。もつとも芸人の側からいうとシエルバの村は上演しがいのない場所ではある。チベット語ラサ方言で語り歌われる芝居は、理解するのが、わたしのようにチベット語のイロハをかじつただけの者は論外としても、ネペール語で教育を受けたシエルバの若者には至難の技である。芝居の筋は昔話として聞いて知つているのだが、そこで観客はおしゃべりに忙しく、時折、道化役のシェルバ語によるおどけにどつとわくらいであつた。もつともラサ方言地区では逆の報告がある。歌劇の筋はすでに熟知しているので、観客の興味はその日の歌手の節まわし、喉のよしあしであったという。⁽¹⁰⁾

二 八大歌劇と昔話

歌劇は脚本の内容にもとづいて⁽¹¹⁾ 伝記 (raam-thar) [完全なる解放] と呼ばれる。基本的には主人公の誕生、ふりかかる苦難とそれからの解放という一生を語る。したがつて題名はすべて主人公の名前である。伝統歌劇即ちナムタルの種類は約十種といわれるが、わたしが具体的に内容を知ることができるのはそのうちの八種——いわゆ

る八大歌劇であつて中国語訳資料（王轍訳編『藏劇故事集』一九六三）によるものである。欧米の研究では「ティミカンデン」をはじめとする六種の翻訳（後述のうち①②③⑥⑦⑧）が既にあるといわれるが、そこでは多くは題材の出自が問題とされる。例えば M.H. Dunchan のように三種だけがチベット土着のもので、あとはインド文献の翻訳・翻案ものといい、三種だけ（後述の①②⑦）訳して

いる。こうした議論はかつての説話研究におけるインド起源説の流れをくみ同じく非生産的なものであろう。また今年になつてやつと日本に届いた情報では西藏人民出版社により二年ほど前から五種のチベット語のナムタルが出版されている（後述のうち①②⑤⑦⑧）。以下、昔話との共通モチーフに注意しながら、八種をひと口メモ風に紹介しておく。カッコ内の漢字名は中国語の音訳名である。

① 「ギャーサ、ペーサ rgya-za bal-za 中国の王女とネペールの王女」（「甲薩帕薩」）別名「ソンツェンカンボ」中国資料では「文成公主」。求婚難題型、次節で詳しく述べる。

② 「トワサンモ hydro-wa bang-mo」（「卓娃（瓦）桑姆」）王が犬の導きで仙女（mkhiah-hydro-ma）のトワサンモを娶る。魔女（ha-can budz-mo）が化けている正妃が嫉妬しました我が身の地位を危んでトワサンモを追放し、その子供二人を殺そうとするが三回とも失敗する。子供は他国で王となり、正妃を打ち敗す。

③ 「トンニーとトンドウ don yod dan grub」（「頓月頓珠」）シヤーマンの予言により王子（觀音の化身）トンドウが生まれ、母親は死ぬ。やがて王の後妻にも王子（文殊の化身）トンニーが生まれる。繼母は実子のトンニーに王位を継がせたくて継子のトンドウを辺境に追放する。ところがトンニーが兄王子を慕つてついていく。兄トンドウは他国で殺されそうになるが、そこの王女に救われて結

婚、王となる。途中別れ別れになつた弟をさがし出し祖国の王位を継がせる。この話は、チベットのアラビアンナイトといわれる『物語』(ro-sgruh)——不思議な屍体の語る物語に⁽¹⁾あるといわれ、また異伝の昔話採集資料もある。

④「ペーマオーパ pad-ma hod-nbar」(「白馬文巴」) 王は大商人が王位を篡奪するのを恐れて商人に竜宮の宝物をとりに行かせる。商人は死ぬ。その息子(蓮華生の化身)は身元をかくして生き残るが、ついには王に見つかり父親同様、難題を課せられる。竜宮の宝、さらには羅刹国の宝を獲得し、王を打ち敗し王位を継ぐ。

⑤「ノルサン chos-rgyal nor-bu bzang-po」(「諾桑王子」) 「諾爾桑伝」 狩人が湖に舞いおりた天女をひもでつかまえて、ノルサン王子に献ずる。王子の後宮五百人が天女の妃に嫉妬して王子の出征中に天女を殺そつとする。天女は天に逃げ帰る。王子は天に追いかけいいき、天女の父王からの難題を解決して天女とともに國に帰り王となる。この天人女房譚難題型は、例えばタイの羽衣説話として名高い叙事詩「スートン王子」と出典(インドのスマナ・ジャータカ)を同じくする。なおこの歌劇上演は歴史書によれば十七C初にさかのぼる。⁽²⁾

⑥「スーキニマ gzung-kyi nyi-ma」(「蘇吉尼瑪」) 鹿が隠士の精を呑み娘を生む。王が鹿娘と結婚。王の後宮二千五百人が嫉妬して鹿娘は魔女であると三度にわたつて王に告げる。王は鹿娘を沸血海に行かせる。鹿娘は苦しみながらも衆生の救済を願う。護法神が娘を救い出し、元通り王妃となる。これは今世紀はじめの創作といわれる。⁽³⁾

⑦「ナンサ sna-saṇi hod-de-hbum」(「朗薩姑娘」「囊薩姑娘」「朗莎雯波」) 老婆が胸に光をうけて娘ナンサを生む。領主がむりやり

ナンサを娶る。ナンサは小姑に嫌われ、ついには殺されて冥土に行く。エンマによりこの世に帰される。再びひどい仕打ちを受けて出生家。領主一族が寺を攻めるが失敗。ナンサは天にのぼる。これは実際に起つた事件にもとづいて語り物があまれ、さらに歌劇として上演され一世を風靡したという。⁽⁴⁾ 最近一九八〇年にはナンサのアリアが北京の中央人民放送局から電波にのつて日本にも届いたのだつた。

⑧「ティミクンデン dri-med-kun-idan」(「赤美浪登(丹)」「智美更登」) ティミクンデン王子は人のあさましさを悲しみ、すべてを施すと宣言。鎮國の宝まで敵国に施したため國から追放される。王子はさらに自分の子供、妻、そして眼まで人に施す。様々な試練を経て、すべて元通りになり王となる。出典は六度集經第二須大拏經など。

以上八種の歌劇について、①は次節にまわすとして七種の共通テーマや気づいたことをあげておく。七種すべてが部分的に重なりあうが、とりわけ②③④は王位継承をめぐる争い、貴種流離譚的要素、求運の旅モチーフなどが共通しており、話型群としての運命譚に位置付ければ別の興味の対象となろう(関敬吾一九八二「運命譚——その系統と分布」を参照)。⑥⑦⑧は仏教的色彩がとくに濃厚となるなど多少のずれはあるものの七種に共通するテーマは仏教に帰依する者の勝利である。仏の生まれかわりである主人公をとことんいじめ殺害を図る者は男女のシャーマンや魔女であつて、これらは仏教流入以前のチベットの土着宗教やボン教を代表する勢力である。仏の化身が旧勢力を退治する、あるいは悔悛させるという結果によってラマ教の布教という歌劇の目的を果すことになる。

この見取り図は、わたしがネパールで常に耳にした「ペイマ・カ

タン pad-ma bkah thang」(「蓮華遺教」)の話、すなわちパドマサンバガが土着の神々やボン教の神々を悪魔、人喰い鬼として退治し仏教を布教したという一連の話に符合する。

さて、歌劇と昔話両者の表現形式における関わりについて述べる。幸い②トワサンモについては、比較に足る資料が見つかった。

歌劇資料はラサの木版本の全訳と思われる翻訳⁽¹⁾ (一九六二)。昔話資料は四川省西北草原で採録された「姐弟倆」(慶泉、双耀整理一九五八)。注目すべきことに、歌劇での歌詞のいくつかがそつくりそのまま、あるいは多少の変形をもつて昔話の語りの部分にはいつている。例えば、トワサンモの娘と息子が繼母の命令で殺されに連れていかれる途中、鳥や鹿の親子の睦じい様子を眺め、自分たちの悲惨な境涯をそれとひき比べて嘆く場面などは全く共通する。また、殺されに行く姉弟を村人が憐れんで、歌劇では「ふたりは日月のよう。花が仏様に供えられないうちに無情な霜にうちしおれる」(二五九、二六九頁)昔話資料では「天の日月のよう。山の際から今顔を出すというのに、もう無情な黒雲におおわれる。地に咲く牡丹のよう。つばみが今開くというのに、もう霜にうちしおれる」(六七頁)と地の文に語られる。

チベット歌謡の特徴は押韻ではなくて対句や比喩の駆使にあるのだから、語りの中の韻文調は語り手が歌にすぐれていれば節をつけ歌うだろう。シェルペの村では例えは語り物リン・ケサールの同じ一段でも、ある村人は昔話化して語り、ある村人は自分の歌の能力にあわせて部分的に歌ってくれた。なお昔話資料にも歌われる歌が入る。しかし、これは歌劇の中の歌詞とほとんど形式が異なる。音楽的な側面はすべて今後の課題であるが、チベットの歌謡は伴奏や舞踊とともになうシ² (gzhas) 系と歌うだけのルー (glu) 系に分か

れるといわれ、その違いが歌劇の歌と昔話のそれとの間にあるようだ。

三 四重層の難題

—「ギャサ、ペーサ」の場合—

「^ア中国の王女とネペールの王女」は舞台設定が上記七種の歌劇と異り、史書の記載や歴史伝説に沿ったものである。吐蕃帝国の実質的な礎をきずいたソンツォン・ガンポ王 srong-btsan-sgam-po 五九または六一七~六五〇年)は、ネペールの王女ブリクティと中国は唐の太宗の王女文成公主を妃に迎えたといわれ、そのおり求婚の使者に大臣ガルワトンツェンを遣したという記録にもとづく。このため題目を「ソンツォンガンポ」ともいう。中国側ではこの話の昔話資料を中藏友好のシンボルとして「文成公主」の名で呼ぶ。しかし、内容的には「大臣の頓智」と題すべきもので求婚難題の話である。難題そのものは日本の今昔物語(巻5天竺付佛前32)と共通し、その一部はやはり雜宝藏經を出典とするものであろう。

さて歌劇「ギャサ、ペーサ」及びその昔話は、日本の蠟通し明神説話とは比較にならない、ひどく入りこんだ四重層の難題モチーフをもつものである。以下それを紹介し、歌劇と昔話を比較しながら難題が求婚と結びついて広く伝承されてきた背景を追ってみたい。資料は、昔話の方はわたしがタンボチヨ寺院にて院長のウガワン・テンジン・ザンブー氏より採録したもの(一九七一・六・二三、大臣の名はロンバ・リッペツエン)。歌劇資料は一九二〇年代に十三年間チベットに滞在した M. H. Dunchan が東部カム地方バターンで上演されたものを実際に見物し、その脚本を英訳した Harvest festival dramas of Tibet 一九五五。各場面の写真が掲載され注釈

もフィールド・ワークによるもので資料的価値は高い。なお中国語訳資料はとくに昔話は数が多いが、いずれも身元不詳といわなければならず、ここでは使わないことにする。

I 大臣が唐の都に着くと、太宗は三つの質問をして、すぐさま

チベットへ引き返し王の返事を聞いてまいれという。大臣はトリックをつかって王の手紙を捏造して渡す。

II 太宗が五人の求婚者（インド、リン、ペルシャ、ホルそしてチベット）に八回にわたり難題を課す。(1)ユー（トルコ石）に糸を通せ、(2)五百頭の羊を一日で処理し皮をなめせ、(3)頭骸骨の碗百杯の濁酒を飲め、(4)百組の馬の親子と(5)百組の鳥の親子と(6)百本の棒の本末、各々識別せよ、(7)宮殿の秘密の場所から宿舎に帰り着け、(8)三百人の乙女の中から公主をさがしだせ。大臣はすべて解決する。

III 文成公主が輿入れしたあと、大臣は大使として（実際は人質として）長安に赴くことになる。大臣は仮病をつかい医者が脈を見たためのひもを犬の手や鶏の足にゆわえて危篤状態にみせ、赴任をとりやめにする。昔話資料では大臣ひとりが人質として長安に残されるが、医者を同様にだまして病氣を理由に帰国する。その際、太宗に白檀の炭、錦織の灰、焼酎と羊肉などを要求し各々トリックに使って中国兵をだまし無事帰国する。

IV ギャサが子供を生むが、それをねたんでペーサが奪つて我が子とする。妃二人の子争いに日本でいう大岡裁判が下つて一件落着。（歌劇資料にこの部分はない）

以上により「ギャサ、ペーサ」は、いってみれば難問（Iの部分）、難題（II）、頓智・トリック（III、IV）の、いかにも絢爛豪華

な陳列室である。

この昔話と歌劇両者についてまずテーマから追っていく。昔話資料の方は難題解決の巧智がテーマであろう。題名からいえば主人公であるべき二人の王女とチベット王が機能（行為）するものとして登場しないのだから、他の七種の歌劇あるいはその昔話に比べ著しく物語性に欠ける。同じ求婚難題モチーフを持ちながら天人女房難題型にみられる男女間のリアリティは見るべくもない。このようなプリマドンナ不在の、巧智譚が同時に歌劇でありうるはどういうことなのか。まずはその内容が見ものである。歌劇資料は巧智譚と同じ枠をもぢながらみごとなほど歌劇になりきっている。テーマは王女二人の苛酷な運命とけなげさ、あるいは親子の情愛と別離である。昔話と違つて舞台では大臣とともに王女二人とその父王が主役をつとめる。二人の王女は、父王からチベットへの輿入れを知られると、さめざめと泣きながら「あんな野蛮な国へ行くのはゆるしてください」と懇願してアリアをうたう。父王はあれこれとなだめなぐさめる。王女は四度目にやつと承諾する。そのあとは家族とのつらい今生の別れ、お互い綿綿と詠唱する。歌劇の聞かせどころを具体的に紹介する紙面がないが、「上演を実際に見、またナムタルを一心に読む人は思わず知らず涙をながす」とチベット語版のあとがきにあり、わたしなどもついた眼頭があつくなつたとだけいつておこう。

昔話と歌劇のテーマのひらきがそのまま表現形式の相違となつてゐる。昔話は難題と解決を具体的写実的に語る。ところが歌劇資料は難題を昔話の五題より多く八題も課しながら、描写は粗略で抽象的である。脚本では舞台装置や所作に關しては一切指示しないのが普通であるから、そのためかもしれないが、かなり軽視されている

といえよう。

四 難題と婚礼歌謡

歌劇と昔話両資料を各々一箇の作品としてみると、わたしにはどうしても一つの疑問が出てくる。歌劇は結婚に際しての親子の情愛と別離をうたいながら、なぜあのようにこれでもかこれでもかと難題をならべるのだろうか。また昔話は逆に四重層の精緻な巧智譚として独立した内容を持ちながら、なぜ「ギャサ、ペーサ」と呼ばれているのだろうか。つまり求婚と難題との結合がいかにも不安定にうつるのである。しかし、それにもかかわらず人気を博して伝承されてきたのであるから、両資料の芸術性とは別のところに、なにか伝承をささえる要素が伝承者側にあるのではないか。わたしは資料不足も手伝つて氣付くのが遅かつたが、伝承過程のエネルギー源は彼らの婚礼の習俗、とりわけ婚礼歌謡とその中の謡歌のかけあいにあるのではないかと考えるに至つた。婚礼を両資料の背後に位置付けるとわたしの疑問はほとんど解決される。

チベットの結婚儀礼は、あたかも歌謡という伝統のベルトコンベアに乗せてとりおこなわれるようだ。婚礼歌謡とその翻訳資料はかなりの数にのぼるもの、残念ながらフィールドからの説明が少ない。中国語訳資料などは多くはまるで丸裸のまま歌だけがならんでいる。また一方、河口慧海『西藏旅行記』のようないくつかの歌謡にはふれないと、婚礼の式次第を詳しく述べたものもある（下巻一〇二六）。最近は、式次第から歌を説明したものも出はじめた。青海省東部の報告を主にして歌劇「ギャサ、ペーサ」と比較してみよう。

婚礼の当日だけをとりあげると、まず花嫁の女友達がうたう「化粧の歌」「花嫁衣裳の歌」からはじまり、花婿の親戚が嫁の家に迎えに来た時の「嫁迎えの歌」、花嫁が馬にのり家を離れる時に親兄弟が泣いてうたう「嫁送りの歌」、道中に付添いが歌う長歌「オニニ」。これらの歌は歌劇における王女二人の出立・別離の歌と内容的に重なりあり——節回しの比較は今後の調査にまつしかない。さて、花嫁一行が花婿の家に着くと、西チベットの例では嫁側が嫁の家をほめてうたう。それに対しても嫁側が結婚のための条件（結納）をだしてうたう——家でいつも使うチャンタンの塩が升に百杯ありますか？ 子供が生まれるとき、男の子孫がふえますようにと吉兆として使う小麦が升に百杯ありますか？ 等々。この場面は歌劇において父王が使者に対して「チベットには十善にもとづく政治が行なわれているか、仏殿をたてようとするのか、五種の財物（五官をたのしませるもの）があるのか」を聞いたのですと重なりあおう。

花婿の家で老人達の古式ゆたかな寿歌の朗詠により結婚式がとりおこなわれ、やがて酒宴となり、様々な歌や踊りの中で嫁側と嫁側対抗の歌のかけあいがはじまる。夜になれば歌の応酬とともに親戚を嘲う滑稽劇が演じられる。

かけあい歌は婚礼の中の様々な機会にうたわれるが、その内容は世界の森羅万象にわたる謎かけである。たとえばまるで中国古代の天問を想起させるもの——「宇宙創世の折、天地はとけあい一つであつた。誰が天と地を分けたのか？」宇宙創世の折、陰陽はとけあいつであった。誰が陰と陽を分けたのか」また、もう少し身近かなもの——「角をおさえて野生のヤクを捕えるのは誰……投縄で水を捕えるのは誰。砂でお城をつくるのは誰」

婚礼の謡歌の内容は観念的な難問の性質をもち、難題モチーフにみる試練としての実践的課題という性質とは直接はつながらない。

これも今後の追求にまつしかないが、こゝでいえることは、婚礼と謡歌のかけあいとの結合という習俗の構造が、すでに述べてきた歌劇と昔話両者における求婚（結婚）と難題の結合という構造に重ねることができるということである。チベットの人々にとって歌劇にみる結婚の抒情性と難題モチーフはなんら不安定な結びつきではなくて、自らの習俗に根ざしたものであり、昔話の巧智譚が求婚譚として呼ばれるのも同然である。

なお、難題モチーフそのものの生成発展についてここで述べる余裕はないが、婚礼の謡歌をさかのぼると一つの推測がなりたつようだ。謡歌のはじまりは、古代の「謡歌い」にあるといわれる。

R・A・スタン『チベットの文化』によれば、仏教流入以前に神や人の起源と系譜を正しく唱えることによって社会の秩序を維持するという神聖な職能をボン教徒や物語師とともにこの謡歌いが荷つており、その表現方法は謡かけ、質疑応答の歌であつたところ（110頁）。古代の謡歌がしだいに謡歌いの手をはなれ遊戯化していくようだ。例えばチベットの創世神話としても有名な「卵の祖先伝説は、叙事詩では、リン国の中年たちとシナの少女たちの間でとりかわされる歌の主題となって」おり、少年が質問を出してもし少女が答えられなければ放さないと脅かし、「この謡かけ争いにはそのあとに一連の競技、すなわち力くらべ、魔術くらべ、幻術くらべ」「弓術くらべが続く」（110九頁）。ここにいう謡かけ争いの中の様々な競技、遊技が歌劇や昔話の実践的試練的難題モチーフの生成に関与したのではないかと推測される。また謡歌と歌垣的習俗との関連もあるが、これらの点も今後の課題である。

話がいやさか飛躍してしまったが、ともあれ本稿での結論は以上から公式化していえば、歌劇と昔話「ギャヤ、ペーサ」は、婚礼習

俗の二つの詩的表現形式についてよく、歌劇の方は婚礼歌謡の抒情性の発展であり、昔話の方はその遊戯性の発展であるといふことにほかならない。

チベットを対象とするだけに、情報収集が様々な制限を受け、おのずと中国語訳資料にたよることとなり、広く浅くの予備的考察に終ってしまった。歌劇はチベットに限らず雲南省など、中国西南少数民族の人々にもこよなく愛されている。今後、口承文芸との関わりで歌劇研究の輪がひろがればと願う次第である。

注 一九八一『中国少数民族文学作品選』四分冊

(1) 馬學良主編 一九八一『中国少数民族文学作品選』四分冊
二頁

(2) チベット語のつづりはいわば歴史仮名使いのため、現在の發音と異なる場合が多く、また一つのつづりを幾通りにも読む場合が多い。例えば pad-ma (蓮華) はペドマ、ペマ、ペイマと三つの読み方がある。あるいは同音異義が多い。せいで命のためカタカナ表記のある幾つかはつづりをローマ字表記した。転写法は Das, S. C., 1902, *A Tibetan-English Dictionary*, Delhi, 1970 に依拠する。カタカナ表記は、現地でわたくしが耳にした発音を主とする。

Bista, D. B., 1967, *People of Nepal*, Kathmandu, p. 159
語つづりの文句は dañ-po dañ-po dpe やい シタ sña-ma (mgo-ma) 直訳やれざへる 「ばんぬばんの罫」

(5) (4) (3) Dunchan, M. H., 1955, *Harvest festival dramas of Tibet*, Hong Kong, p. 12
(6) Füer-Haimendorf, C., 1964 *The Sherpas of Nepal*, pp. 210—224. Jerstad, L. G., 1969, *Mani-Rimdu Sherpa Dance*

Drama.

- (7) 何良俊採録「藏戲的故事」『民間文学』一九六二・四、一四〇～一四二頁。
- (8) Dunchan, M. H. 前掲書十八
- (9) 王堯訳 一九六二「卓瓦桑姆」『少数民族戯劇選』一卷 一一九頁
- (10) 東洋文庫で閲覽。... Woolf, H. I., 1924, *Three Tibetan Mysteries*: Tchirimekundan, Nansal, Djroazamno. tr. the French Version of J. Bacot, 1921. Morrison, M. H., 1925, *Ti-Med-kun Den* (これは現在紛失中) Dunchan, M. H., 1925, *Ti-Med-kun Den*, Ross, E. D., 1912, *The story of Ti-Med-kun Den*.
- (11) 前掲書。その他三種の翻訳については Hoffmann, H., 1975, *Tibet, a Handbook* p. 20 の文献リストによるため未見。
- (12) 黑爾甲口述、肖崇素採録、吳三合通訳、一九五四採録「額爾丹巴和克斯僅若爾藏」『奴隸与龍女』一九五七、五八～七〇
- (13) 王堯編訳 一九六三『藏劇故事集』の各々十二、七九、一四九頁。
- (14) 注(9)に同じ、一一三二～一一八六頁
- (15) 『民間文学』一九五八・三、五一～七七頁
- (16) 歌劇資料 二六〇、昔話資料 六六、六七頁
- (17) 任乃強 一九八一「松贊干布年譜」『西藏研究』創刊号、八〇十七頁
- (18) 「文成公主」『文成公主』一九五六、「藏王的求婚使者」『民間文学』一九五七・一、「文成公主的故事」『藏族民間故事選』一九八〇、「關於文成公主的伝説」『民族團結』一九七九・一、「文成公主」出典は注(1)と同じ
- (20) 「ギャサ・ペーナ」の藏文版が入手できず、この引用は次のトロサニヤが心の声。don-grub 編 一九八〇 *mikhaib-hdro ligrowa-bzam mohi gsuu-rab rnam thar bshungs-so* 西藏人民出版社
- (21) 「藏族婚礼敬酒曲」『民間文学』一九六四・一、「婚礼祝歌」『民間文学』一九七九・七、「西藏婚礼贊詞」『藏族民歌選』一九八一など。
- (22) 許英國 一九八二「藏族婚禮歌介紹」『西藏文化』一卷 G. Tucci, 1966, *Tibetan Folk Songs*, p. 52
- (23) 「当初“什日”形成時」『藏族民歌選』一九八一、一一一(1971) 二二〇
- (24) スタノ、R. A. 一九六二『チベットの文化』山口・定方訳 (一九七一) 一一〇
- (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100) (101) (102) (103) (104) (105) (106) (107) (108) (109) (110) (111) (112) (113) (114) (115) (116) (117) (118) (119) (120) (121) (122) (123) (124) (125) (126) (127) (128) (129) (130) (131) (132) (133) (134) (135) (136) (137) (138) (139) (140) (141) (142) (143) (144) (145) (146) (147) (148) (149) (150) (151) (152) (153) (154) (155) (156) (157) (158) (159) (160) (161) (162) (163) (164) (165) (166) (167) (168) (169) (170) (171) (172) (173) (174) (175) (176) (177) (178) (179) (180) (181) (182) (183) (184) (185) (186) (187) (188) (189) (190) (191) (192) (193) (194) (195) (196) (197) (198) (199) (200) (201) (202) (203) (204) (205) (206) (207) (208) (209) (210) (211) (212) (213) (214) (215) (216) (217) (218) (219) (220) (221) (222) (223) (224) (225) (226) (227) (228) (229) (230) (231) (232) (233) (234) (235) (236) (237) (238) (239) (240) (241) (242) (243) (244) (245) (246) (247) (248) (249) (250) (251) (252) (253) (254) (255) (256) (257) (258) (259) (260) (261) (262) (263) (264) (265) (266) (267) (268) (269) (270) (271) (272) (273) (274) (275) (276) (277) (278) (279) (280) (281) (282) (283) (284) (285) (286) (287) (288) (289) (290) (291) (292) (293) (294) (295) (296) (297) (298) (299) (300) (301) (302) (303) (304) (305) (306) (307) (308) (309) (310) (311) (312) (313) (314) (315) (316) (317) (318) (319) (320) (321) (322) (323) (324) (325) (326) (327) (328) (329) (330) (331) (332) (333) (334) (335) (336) (337) (338) (339) (340) (341) (342) (343) (344) (345) (346) (347) (348) (349) (350) (351) (352) (353) (354) (355) (356) (357) (358) (359) (360) (361) (362) (363) (364) (365) (366) (367) (368) (369) (370) (371) (372) (373) (374) (375) (376) (377) (378) (379) (380) (381) (382) (383) (384) (385) (386) (387) (388) (389) (390) (391) (392) (393) (394) (395) (396) (397) (398) (399) (400) (401) (402) (403) (404) (405) (406) (407) (408) (409) (410) (411) (412) (413) (414) (415) (416) (417) (418) (419) (420) (421) (422) (423) (424) (425) (426) (427) (428) (429) (430) (431) (432) (433) (434) (435) (436) (437) (438) (439) (440) (441) (442) (443) (444) (445) (446) (447) (448) (449) (450) (451) (452) (453) (454) (455) (456) (457) (458) (459) (460) (461) (462) (463) (464) (465) (466) (467) (468) (469) (470) (471) (472) (473) (474) (475) (476) (477) (478) (479) (480) (481) (482) (483) (484) (485) (486) (487) (488) (489) (490) (491) (492) (493) (494) (495) (496) (497) (498) (499) (500) (501) (502) (503) (504) (505) (506) (507) (508) (509) (510) (511) (512) (513) (514) (515) (516) (517) (518) (519) (520) (521) (522) (523) (524) (525) (526) (527) (528) (529) (530) (531) (532) (533) (534) (535) (536) (537) (538) (539) (540) (541) (542) (543) (544) (545) (546) (547) (548) (549) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (560) (561) (562) (563) (564) (565) (566) (567) (568) (569) (570) (571) (572) (573) (574) (575) (576) (577) (578) (579) (580) (581) (582) (583) (584) (585) (586) (587) (588) (589) (580) (581) (582) (583) (584) (585) (586) (587) (588) (589) (590) (591) (592) (593) (594) (595) (596) (597) (598) (599) (590) (591) (592) (593) (594) (595) (596) (597) (598) (599) (600) (601) (602) (603) (604) (605) (606) (607) (608) (609) (600) (601) (602) (603) (604) (605) (606) (607) (608) (609) (610) (611) (612) (613) (614) (615) (616) (617) (618) (619) (610) (611) (612) (613) (614) (615) (616) (617) (618) (619) (620) (621) (622) (623) (624) (625) (626) (627) (628) (629) (620) (621) (622) (623) (624) (625) (626) (627) (628) (629) (630) (631) (632) (633) (634) (635) (636) (637) (638) (639) (630) (631) (632) (633) (634) (635) (636) (637) (638) (639) (640) (641) (642) (643) (644) (645) (646) (647) (648) (649) (640) (641) (642) (643) (644) (645) (646) (647) (648) (649) (650) (651) (652) (653) (654) (655) (656) (657) (658) (659) (650) (651) (652) (653) (654) (655) (656) (657) (658) (659) (660) (661) (662) (663) (664) (665) (666) (667) (668) (669) (660) (661) (662) (663) (664) (665) (666) (667) (668) (669) (670) (671) (672) (673) (674) (675) (676) (677) (678) (679) (670) (671) (672) (673) (674) (675) (676) (677) (678) (679) (680) (681) (682) (683) (684) (685) (686) (687) (688) (689) (680) (681) (682) (683) (684) (685) (686) (687) (688) (689) (690) (691) (692) (693) (694) (695) (696) (697) (698) (699) (690) (691) (692) (693) (694) (695) (696) (697) (698) (699) (700) (701) (702) (703) (704) (705) (706) (707) (708) (709) (700) (701) (702) (703) (704) (705) (706) (707) (708) (709) (710) (711) (712) (713) (714) (715) (716) (717) (718) (719) (710) (711) (712) (713) (714) (715) (716) (717) (718) (719) (720) (721) (722) (723) (724) (725) (726) (727) (728) (729) (720) (721) (722) (723) (724) (725) (726) (727) (728) (729) (730) (731) (732) (733) (734) (735) (736) (737) (738) (739) (730) (731) (732) (733) (734) (735) (736) (737) (738) (739) (740) (741) (742) (743) (744) (745) (746) (747) (748) (749) (740) (741) (742) (743) (744) (745) (746) (747) (748) (749) (750) (751) (752) (753) (754) (755) (756) (757) (758) (759) (750) (751) (752) (753) (754) (755) (756) (757) (758) (759) (760) (761) (762) (763) (764) (765) (766) (767) (768) (769) (760) (761) (762) (763) (764) (765) (766) (767) (768) (769) (770) (771) (772) (773) (774) (775) (776) (777) (778) (779) (770) (771) (772) (773) (774) (775) (776) (777) (778) (779) (780) (781) (782) (783) (784) (785) (786) (787) (788) (789) (780) (781) (782) (783) (784) (785) (786) (787) (788) (789) (790) (791) (792) (793) (794) (795) (796) (797) (798) (799) (790) (791) (792) (793) (794) (795) (796) (797) (798) (799) (800) (801) (802) (803) (804) (805) (806) (807) (808) (809) (800) (801) (802) (803) (804) (805) (806) (807) (808) (809) (810) (811) (812) (813) (814) (815) (816) (817) (818) (819) (810) (811) (812) (813) (814) (815) (816) (817) (818) (819) (820) (821) (822) (823) (824) (825) (826) (827) (828) (829) (820) (821) (822) (823) (824) (825) (826) (827) (828) (829) (830) (831) (832) (833) (834) (835) (836) (837) (838) (839) (830) (831) (832) (833) (834) (835) (836) (837) (838) (839) (840) (841) (842) (843) (844) (845) (846) (847) (848) (849) (840) (841) (842) (843) (844) (845) (846) (847) (848) (849) (850) (851) (852) (853) (854) (855) (856) (857) (858) (859) (850) (851) (852) (853) (854) (855) (856) (857) (858) (859) (860) (861) (862) (863) (864) (865) (866) (867) (868) (869) (860) (861) (862) (863) (864) (865) (866) (867) (868) (869) (870) (871) (872) (873) (874) (875) (876) (877) (878) (879) (870) (871) (872) (873) (874) (875) (876) (877) (878) (879) (880) (881) (882) (883) (884) (885) (886) (887) (888) (889) (880) (881) (882) (883) (884) (885) (886) (887) (888) (889) (890) (891) (892) (893) (894) (895) (896) (897) (898) (899) (890) (891) (892) (893) (894) (895) (896) (897) (898) (899) (900) (901) (902) (903) (904) (905) (906) (907) (908) (909) (900) (901) (902) (903) (904) (905) (906) (907) (908) (909) (910) (911) (912) (913) (914) (915) (916) (917) (918) (919) (910) (911) (912) (913) (914) (915) (916) (917) (918) (919) (920) (921) (922) (923) (924) (925) (926) (927) (928) (929) (920) (921) (922) (923) (924) (925) (926) (927) (928) (929) (930) (931) (932) (933) (934) (935) (936) (937) (938) (939) (930) (931) (932) (933) (934) (935) (936) (937) (938) (939) (940) (941) (942) (943) (944) (945) (946) (947) (948) (949) (940) (941) (942) (943) (944) (945) (946) (947) (948) (949) (950) (951) (952) (953) (954) (955) (956) (957) (958) (959) (950) (951) (952) (953) (954) (955) (956) (957) (958) (959) (960) (961) (962) (963) (964) (965) (966) (967) (968) (969) (960) (961) (962) (963) (964) (965) (966) (967) (968) (969) (970) (971) (972) (973) (974) (975) (976) (977) (978) (979) (970) (971) (972) (973) (974) (975) (976) (977) (978) (979) (980) (981) (982) (983) (984) (985) (986) (987) (988) (989) (980) (981) (982) (983) (984) (985) (986) (987) (988) (989) (990) (991) (992) (993) (994) (995) (996) (997) (998) (999) (990) (991) (992) (993) (994) (995) (996) (997) (998) (999) (1000) (1001) (1002) (1003) (1004) (1005) (1006) (1007) (1008) (1009) (1000) (1001) (1002) (1003) (1004) (1005) (1006) (1007) (1008) (1009) (1010) (1011) (1012) (1013) (1014) (1015) (1016) (1017) (1018) (1019) (1010) (1011) (1012) (1013) (1014) (1015) (1016) (1017) (1018) (1019) (1020) (1021) (1022) (1023) (1024) (1025) (1026) (1027) (1028) (1029) (1020) (1021) (1022) (1023) (1024) (1025) (1026) (1027) (1028) (1029) (1030) (1031) (1032) (1033) (1034) (1035) (1036) (1037) (1038) (1039) (1030) (1031) (1032) (1033) (1034) (1035) (1036) (1037) (1038) (1039) (1040) (1041) (1042) (1043) (1044) (1045) (1046) (1047) (1048) (1049) (1040) (1041) (1042) (1043) (1044) (1045) (1046) (1047) (1048) (1049) (1050) (1051) (1052) (1053) (1054) (1055) (1056) (1057) (1058) (1059) (1050) (1051) (1052) (1053) (1054) (1055) (1056) (1057) (1058) (1059) (1060) (1061) (1062) (1063) (1064) (1065) (1066) (1067) (1068) (1069) (1060) (1061) (1062) (1063) (1064) (1065) (1066) (1067) (1068) (1069) (1070) (1071) (1072) (1073) (1074) (1075) (1076) (1077) (1078) (1079) (1070) (1071) (1072) (1073) (1074) (1075) (1076) (1077) (1078) (1079) (1080) (1081) (1082) (1083) (1084) (1085) (1086) (1087) (1088) (1089) (1080) (1081) (1082) (1083) (1084) (1085) (1086) (1087) (1088) (1089) (1090) (1091) (1092) (1093) (1094) (1095) (1096) (1097) (1098) (1099) (1090) (1091) (1092) (1093) (1094) (1095) (1096) (1097) (1098) (1099) (1100) (1101) (1102) (1103) (1104) (1105) (1106) (1107) (1108) (1109) (1100) (1101) (1102) (1103) (1104) (1105) (1106) (1107) (1108) (1109) (1110) (1111) (1112) (1113) (1114) (1115) (1116) (1117) (1118) (1119) (1110) (1111) (1112) (1113) (1114) (1115) (1116) (1117) (1118) (1119) (1120) (1121) (1122) (1123) (1124) (1125) (1126) (1127) (1128) (1129) (1120) (1121) (1122) (1123) (1124) (1125) (1126) (1127) (1128) (1129) (1130) (1131) (1132) (1133) (1134) (1135) (1136) (1137) (1138) (1139) (1130) (1131) (1132) (1133) (1134) (1135) (1136) (1137) (1138) (1139) (1140) (1141) (1142) (1143) (1144) (1145) (1146) (1147) (1148) (1149) (1140) (1141) (1142) (1143) (1144) (1145) (1146) (1147) (1148) (1149) (1150) (1151) (1152) (1153) (1154) (1155) (1156) (1157) (1158) (1159) (1150) (1151) (1152) (1153) (1154) (1155) (1156) (1157) (1158) (1159) (1160) (1161) (1162) (1163) (1164) (1165) (1166) (1167) (1168) (1169) (1160) (1161) (1162) (1163) (1164) (1165) (1166) (1167) (1168) (1169) (1170) (1171) (1172) (1173) (1174) (1175) (1176) (1177) (1178) (1179) (1170) (1171) (1172) (1173) (1174) (1175) (1176) (1177) (1178) (1179) (1180) (1181) (1182) (1183) (1184) (1185) (1186) (1187) (1188) (1189) (1180) (1181) (1182) (1183) (1184) (1185) (1186) (1187) (1188) (1189) (1190) (1191) (1192) (1193) (1194) (1195) (1196) (1197) (1198) (1199) (1190) (1191) (1192) (1193) (1194) (1195) (1196) (1197) (1198) (1199) (1200) (1201) (1202) (1203) (1204) (1205) (1206) (1207) (1208) (1209) (1200) (1201) (1202) (1203) (1204) (1205) (1206) (1207) (1208) (1209) (1210) (1211) (1212) (1213) (1214) (1215) (1216) (1217) (1218) (1219) (1210) (1211) (1212) (1213) (1214) (1215) (1216) (1217) (1218) (1219) (1220) (1221) (1222) (1223) (1224) (1225) (1226) (1227) (1228) (1229) (1220) (1221) (1222) (1223) (1224) (1225) (1226) (1227) (1228) (1229) (1230) (1231) (1232) (1233) (1234) (1235) (1236) (1237) (1238) (1239) (1230) (1231) (1232) (1233) (1234) (1235) (1236) (1237) (1238) (1239) (1240) (1241) (1242) (1243) (1244) (1245) (1246) (1247) (1248) (1249) (1240) (1241) (1242) (1243) (1244) (1245) (1246) (1247) (1248) (1249) (1250) (1251) (1252) (1253) (1254) (1255) (1256) (1257) (1258) (1259) (1250) (1251) (1252) (1253) (1254) (1255) (1256) (1257) (1258) (1259) (1260) (1261) (1262) (1263) (1264) (1265) (1266) (1267) (1268) (1269) (1260) (1261) (1262) (1263) (1264) (1265) (1266) (1267) (1268) (1269) (1270) (1271) (1272) (1273) (1274) (1275) (1276) (1277) (1278) (1279) (1270) (1271) (1272) (1273) (1274) (1275) (1276) (1277) (1278) (1279) (1280) (1281) (1282) (1283) (1284) (1285) (1286) (1287) (1288) (1289) (1280) (1281) (1282) (1283) (1284) (1285) (1286) (1287) (1288) (1289) (1290) (1291) (1292) (1293) (1294) (1295) (1296) (1297) (1298) (1299) (1290) (1291) (1292) (1293) (1294) (1295) (1296) (1297) (1298) (1299) (1300) (1301) (1302) (1303) (1304) (1305) (1306) (1307) (1308) (1309) (1300) (1301) (1302) (1303) (1304) (1305) (1306) (1307) (1308) (1309) (1310) (1311) (1312) (1313) (1314) (1315) (1316) (1317) (1318) (1319) (1310) (1311) (1312) (1313) (1314) (1315) (1316) (1317) (1318) (1319) (1320) (1321) (1322) (1323) (1324) (1325) (1326) (1327) (1328) (1329) (1320) (1321) (1322) (1323) (1324) (1325) (1326) (1327) (1328) (1329) (1330) (1331) (1332) (1333) (1334) (1335) (1336) (1337) (1338) (1339) (1330) (1331) (1332) (1333) (1334) (1335) (1336) (1337) (1338) (1339) (1340) (1341) (1342) (1343) (1344) (1345) (1346) (1347) (1348) (1349) (1340) (1341) (1342) (1343) (1344) (1345) (1346) (1347) (1348) (1349) (1350) (1351) (1352) (1353) (1354) (1355) (1356) (1357) (1358) (1359) (1350) (1351) (1352) (1353) (1354) (1355) (1356) (1357) (1358) (1359) (1360) (1361) (1362) (1363) (1364) (1365) (1366) (1367) (1368) (1369) (1360) (1361) (1362) (1363) (1364) (1365) (1366) (1367) (1368) (1369) (1370) (